国 語

第1問 次の各問いに答えよ。

問1 次の傍線部のカタカナをそれぞれ漢字に改めよ。(楷書で記すこと。)

- (1) 余計な情報をシャダンする。
- (2) 看板にケイコウ塗料を使う。
- (3) 優勝の実感がワク。
- (4) 失敗を犯した友人をナグサめる。
- (5) あらゆる差別のテツパイに取り組む。
- (6) 小型船舶をソウジユウする。
- (7) ヤバンな振る舞いを非難する。
- (8) 工場がヘイサに追い込まれる。
- (9) 環境問題についてのコウエン会に行く。
- (10) ミヤクラクのない文章を書く。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

問2 次の傍線部の漢字の読みをひらがなで記せ。

- (1) 旅行の費用を捻出する。
- (2) 収拾のつかない事態に陥る。
- (3) 築山のある日本庭園。
- (4) 十年前に遡る出来事。
- (5) 対立候補を僅差で破った。
- (6) 計画が破綻する可能性がある。
- (7) 賄賂の受け取りを拒む。
- (8) 皆の羨望の的になる。
- (9) 怠惰な生活を戒める。
- (10) 嘱託社員を雇う。

11
12
13
14
15
16
17
18
19
20

第2問

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

人間とは、「人間とは何なのか、私とは何なのか」と絶えず問う存在である。頭の中で問わな
いまでも、この中で問うている。とすれば、常に^A出会い、常に傍らにあるモノや人や場所が
あつてはじめて、われわれは自己の役割を知り、自分が何ものかの役に立つことを知り、自分が
世界の一部であることを知るだろう。こうしてようやくそれなりの自己確認をえることができる
だろう。

^(注)ヘーゲルが述べたように、人間が社会的な存在であるのは、人は他者から承認されることで初
めて自分自身になるからである。「人間というものは、小さな、^(注)理解の届く集団の中でこそ人間
でありうる」(『スモール イズ ビューティフル再論』)というシューマッハーの言葉は、決し
て通俗的なヒューマンイズムの表明ではなく、人間存在の^I的な条件を述べたものであつた。

だから、われわれは、一方では、市場経済の無限拡張であるグローバルバリズムや情報網の世界的
な拡張を受け止めると同時に、他方では、小規模な地域、組織、場、集団、仕事を保持してゆか
なければならぬ。「そこで、数多くの小規模単位を扱えるような構造を考えることを学ばなけ
ればならない」というわけである。

ひとつの地域は、ただそこに住民票をおいたものが漫然と生活しているのではなく、その土地
への愛着や愛郷心によつてつながっているはずである。相互に相手がどのような人間であるかを
理解でき、できれば、地域ぐるみで子供に対して一定の価値観や道徳基準を教育するものである。
^(注)スミスという「共感」があり、その「共感」のうちに自然と道徳心が生じるのが、地域共同体と
いうものである。

確かにかつては、そういうものがあつた。日本にも西洋にもあつた。^(注)トックヴィルは1830
年代のアメリカを見聞して、この種の地域コミュニティこそがアメリカ社会を支えている、と述
べたのであつた。今日のアメリカでも、この「共同体主義(コミュニタリアン)」の伝統は消え
たわけではない。イギリスでも、教会や学校が軸になつた地域のコミュニティは意外なほどしつ
かりしている。職と住が近接し、ある程度の^{II}的な経済循環ができており、その街や都市や
地域に対するそれなりの愛郷心をもつた人々がいる、という地域コミュニティは、確かにグロー
バリズムに対抗する「数多くの小規模単位を扱えるような構造」のひとつであろう。

組織や集団においてもまた、ただ仕事の分担によつてのみ人々はつながっているのではない。
仕事によつてつながるためにも、ある程度は他人の性格や人柄を知らなければならぬだろう。
さらにはいえばそれだけではなく、ある他人の別の他人に対する関係も知っておかなければならぬ
い。一人一人のお互いに対する関わり方もわかっている必要がある。そうして初めて組織や集団
はうまくゆく。これは、巨大組織では無理であつて、それが可能な適正な規模というものが
あるのだ。こうした相互に信頼できる仲間があつて初めて、人は「組織人」「集団人」として何

とかやっつてゆけるであろう。

逆にいえば、この種の、相互に信頼でき、相互に相手の性格や事情を了解できる組織や集団を作れない社会では、人々は、日常のなかで神経をすり減らし、人間関係はとげとげしく、創造性に欠け、仕事への責任感を持ちえないであろう。組織と仕事は、人々の道徳性の母体にもなるのである。多くのものが、道徳性や規律を身に着けるのは、個人主義によってではなく、適切な組織においてである。

シューマツハーはこういうことを書いている。シューマツハーとは「靴屋」を意味する名前であるが、よい靴屋であるためには靴を作る技術的な知識をもっているだけではダメだ。足についての知識が必要である。それは、ただサイズが大きいか小さいだけでもない。足の動かし方から、足の形、筋肉の柔らかさ、したがって、使用する人の性別や年齢や、時には職業までがかかわってくる。また、硬い舗道を主として歩くか農道で使用するかでも違ってくるだろう。乾燥した土地か雨が深い地域かでも違うだろう。

とすれば、靴は、それが使われる地方によっても、材質や形状が異なる。本当のことをいえば、靴屋とは、人間や風土についてのこうした総合的知識の持ち主なのである。少し大げさにいえば、靴とは、われわれが、われわれの身体を大地や道路やらにつなぎ留め、精神的な安らぎや、逆にまた不安感をもたらす、つまり自然や世界や精神に働きかける道具なのである。

もちろん、今日、こんなオーダーメイドの靴屋はめったにいない。ひとつの標準形に従って大量生産され、様々な形とサイズの多様性さえも情動的に管理される。場合によれば、海外の低賃金工場で生産される。へたをすれば、世界中に同じところで生産されるⅢ的な靴がでまわりかねない。こうして規模の経済と効率性の原理は、靴づくりの仕事から、人間というものに関する総合的な能力を奪い取ってゆく。人間というものについての総合的な能力を必要とするものが「人間的な仕事」だとすれば、グローバル競争や効率性の原理は、大いなる確率で「人間的な仕事」を奪い取るであろう。

もしも、こうした仕事を残し、ある適当な規模の地域や組織を守ろうとすれば、効率性の原理に囚われない、また大量生産と規模の経済の原理に囚われない、つまりは、拡張と進歩の価値に囚われない、別の価値を持ち出すほかないのである。「適切な規模の原理」「適切な豊かさの原理」といったものである。最大化を目指すのではなく、「そこそこ」で自足する精神であり、「足るを知る」の原理である。

「進歩」という思想には恐ろしいところがある。これを経済成長に適用すると、明日は、今日よりよいものを作り出さなければならぬ。そして、「よりよいもの」は「よいもの」を駆逐する。今日、仮に、われわれが「よいもの」を手にしても、その「よいもの」は「よりよいもの」によって敵対視され、すぐに駆逐される。ということは、今日の「よいもの」を作り出した労働は、たえず無意味なものとなる。ただただ、一瞬の後には役に立たないものを生み出していたこ

とになる。

こんな労働にも仕事にも誰が愛着を持ちえるのだろうか。どうして今日の「よいもの」に満足できないのか。なぜ、自足できないのか。何がわれわれを突き動かしているのだろうか。今日の「よいもの」が、すぐに「よりよいもの」によつて放逐され、**IV**されるといふことは、われわれを絶え間ない慌ただしさ、落ち着きのなさ、心理的な不安定のなかに宙づりにする。これが、経済的な「進歩」というのならば、それは「人間的なもの」の「退歩」というほかないであろう。

(佐伯啓思『経済成長主義への訣別』^{けつべつ}による)

(注) ヘーゲル——一七七〇～一八三二年。ドイツの哲学者。

シューマッハー——一九一〇～一九七七年。ドイツ生まれのイギリスの経済学者。

スマイス——一七二三～一七九〇年。アダム・スマイス。イギリスの経済学者。

トックヴィル——一八〇五～一八五九年。フランスの政治思想家・法律家。

問1 二重傍線部ア・イの語句の本文中での意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

ア 漫然と

21

- ① 地域の活動に一切背を向けて
- ② 仕事もせず、ただぶらぶらと
- ③ 地域の一員という意識もなく
- ④ 周りの住民から無視されて
- ⑤ 同じ日課を繰り返しながら

イ とげとげしく

22

- ① ぎすぎすして、良好でなく
- ② ぴりぴりして、対等でなく
- ③ もやもやして、透明でなく
- ④ ひやひやして、濃密でなく
- ⑤ ゆらゆらして、安定的でなく

問2 空欄 **I** ～ **III** に入る語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。ただし、同じものを二度以上選ばないこと。 **I** **23** ・ **II** **24** ・ **III** **25**

- ① 効率
- ② 自給
- ③ 標準
- ④ 基本
- ⑤ 進歩

問3 空欄 **IV** に入る語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 **26**

- ① 萎縮
- ② 歪曲^{わいまど}
- ③ 隠蔽
- ④ 淘汰^{たうた}
- ⑤ 翻弄

問4

傍線部A「常に出会い、常に傍らにあるモノや人や場所があつてはじめて」とあるが、筆者が「常に出会い、常に傍らにあるモノや人や場所」を重視するのはなぜか。その理由の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 27

- ① 常に出会い、常に傍らにあるモノや人や場所は、そこで生きる個人がそれなりの自己確証をえることができるものであり、また道徳心や愛郷心といった共同体への忠誠心を育んでくれるものであるから。
- ② 常に出会い、常に傍らにあるモノや人や場所は、そこで生きる個人のアイデンティティを形作る要素であり、また身近な人々との共感から生まれる道徳心や規律を身に着けるのに不可欠なものであるから。
- ③ 常に出会い、常に傍らにあるモノや人や場所は、そこで生きる個人が他者から承認されるのに必要なものであり、またグローバリズムや情報網の世界的な拡張を受け止めることを可能にしてくれるものだから。
- ④ 常に出会い、常に傍らにあるモノや人や場所は、そこで生きる個人に地域コミュニティの一員としての自覚を与えるものであり、また巨大組織の中の「組織人」「集団人」として生きる自信を与えるものだから。
- ⑤ 常に出会い、常に傍らにあるモノや人や場所は、そこに生きる個人に道徳心や愛郷心をもたせるものであり、またグローバリズムや情報網の世界的な拡張に対抗し、それを阻止する力を与えるものであるから。

問5 傍線部B「よい靴屋」とはどのような靴屋をいうか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 28

① 靴を作る技術的な知識をもっているだけでなく、足の動かし方や形、筋肉の柔らかさといった足についての知識ももっており、さらに自然や世界に関する幅広い知識を備えた教養人でもある靴屋。

② 靴を作る技術的な知識をもっているだけではなく、人間の身体や大地や道路といった、人間や風土についての総合的な知識の持ち主で、明日は今日よりよいものを作ろうと日々努力を怠らない靴屋。

③ 靴を作る技術的な知識をもっているだけではなく、人間や風土についての総合的な知識の持ち主で、グローバル競争や効率性の原理に則りながら、その人その人に合ったオーダーメイドの靴を作れる靴屋。

④ 靴を作る技術的な知識をもっているだけではなく、足についての知識もありながら、効率性の原理、また大量生産と規模の経済の原理についていけず、オーダーメイドの靴を作り続けるしかない靴屋。

⑤ 靴を作る技術的な知識をもっているだけではなく、靴にかかわる人間の身体や精神、風土に関する総合的な知識の持ち主であり、効率性の原理に囚われず、一人一人の適性に配慮した靴が作れる靴屋。

問6 傍線部C「『人間的なもの』」とはどういうものか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 29

① 地域にあつてはコミュニティを大切にし、仕事においては組織や集団の一員として責任感を持って仕事に励むというように、個人よりも集団の和の方を大切にするもの。

② 大量生産と規模の経済の原理に囚われながら経済成長に邁進するような生き方を否定して、共同体主義の伝統に則って道徳心と愛郷心の涵養にひたすら務めるもの。

③ 地域コミュニティとかかわっていても、あるいは組織や集団の一員として仕事をしていても、「人間とは何なのか、私とは何なのか」と絶えず自分に問いかけるもの。

④ 適切な規模の地域や集団や組織の中に身において他者と相互にかかわり合いながら、「そこそこ」で満足する自足の精神に基づいて精神的に豊かな生活を送ろうとするもの。

⑤ 「よごもの」「よりのも」「よりのよごもの」を求めて絶え間ない慌ただしさ、心理的な不安定の状態にあるよりも、たとえ満足できなくても「足るを知る」の原理に従うもの。

問7

本文の内容と合致しないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

30

- ① 社会的な存在である人間は小規模な地域や組織、集団の中にはじめて、自分の役割を知り、自分が世界の一部であることを知ることができる。
- ② アメリカやイギリスに見られる地域コミュニティは、グローバリズムに対抗して市場経済の無限拡張を阻止する、有力な勢力となっている。
- ③ オーダーメイドの靴屋の仕事は人間についての総合的な能力を必要とするが、グローバル競争や効率性の原理はこのような能力を不要にする。
- ④ 効率性の原理と「足るを知る」の原理との対立は、「よいもの」を駆逐しようとする動きと「よいもの」に満足しようとする動きの対立に対応する。
- ⑤ 「進歩」という思想は、「よいもの」よりもさらに「よりよいもの」を求めてどこまでも突き進もうとするもので、経済成長の推進力となってきた。

第3問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

今は昔、河内守源頼信朝臣、上野守にてその国にありける時、その乳母子にて、兵衛尉藤原親孝といふ者ありけり。

それも極めたる兵にて、頼信とともにその国にありけるあひだ、その親孝が居たりける家に、盗人を捕らへて打ち付けて置きたりけるが、いかがしけむ、枷鎖を抜きて逃げなむとしけるに、逃げ得べき様や無かりけむ、この親孝が子の五つ六つばかりなるありける男子の、形敵しかりけるが、走り歩きけるを、この盗人、質に取りて、壺屋のありける内に入りて、膝の下にこの児を掻き臥せて、刀を抜きて、児の腹に差しあてて居ぬ。

その時に、親孝は館にありければ、人走り行きて、「若君をば、盗人、質に取り奉りつ」と告げければ、親孝、驚き騒ぎて、走り来りて見れば、実に盗人、壺屋の内に児の腹に刀を差しあてて居たり。見るに、目も暗れてせむ方無く思ゆ。「ただ寄りてや奪ひてまし」と思へども、大きな刀の鑕めきたるを、あらはに児の腹に差しあてて、「近くな寄りおはしましたそ。近くだに寄りおはしますば、突き殺し奉らむとす」と言へば、「あらはに言ふままに突き殺してば、百千にこ奴を切り刻みたりとも、何の益かはある」と思ひて、郎等どもにも、「あなかしこ、近くな寄りそ。ただ遠外にて守りてあれ」と言ひて、「御館に参りて申さむ」とて、走りて行きぬ。

近き程なれば、守の居たる所に、あわて迷ひたる気色にて走り出でたれば、守、驚きて、「こは何事のあるぞ」と問へば、親孝が言はく、「ただ独り持ちて候ふ子の童を、盗人に質に取られて候ふなり」とて泣けば、守笑ひて、「理にはあれども、ここにて泣くべき事かは。鬼にも神にも取り合はむなどこそ思ふべけれ、童泣きに泣く事は、いとをこなる事にはあらずや。さばかりの小童一人は突き殺させよかし。さやうの心ありてこそ、兵は立ちつれ。身を思ひ、妻子を思ひては、俸あしかりなむ。物恐ぢせずと言ふは、身を思はず、妻子を思はぬを以て言ふなり。さるにても、我行きて見む」と言ひて、太刀ばかりを提げて、守、親孝が栖へ行きぬ。

盗人のある壺屋の口に立ちて見れば、盗人、「守のおはします」**c**「けり」と見て、親孝を言ひつる様にはえ息巻かずして、臥目になりて、刀をいよいよ差しあてて、少しも寄り来らば突き貫きつべき気色なり。その間、児泣く事いみじ。守、盗人に仰せて言はく、「汝はその童を質に取りたるは、我が命を生かむと思ふ故か、また、ただ童を殺さむと思ふか。たしかにその思ふらむ所を申せ、彼奴」と。盗人侘しげなる声を以て言はく、「いかでか児を殺し奉らむとは思ひ給へむ。ただ命の惜しく候へば、生かむとこそ思ひ候へば、もしやとて取り奉りたるなり」と。守、「おい、さるにてはその刀を投げよ。頼信がかばかり仰せ懸けむには、え投げではあらじ。汝に童を突かせてなむ、我え見るまじき。我が心ばへはおのづから音にも聞くらむ。たしかに投げよ、彼奴」と言へば、盗人、暫く思ひ見て、「かたじけなく、いかでか仰せ事をば承らで候はむ。刀投げ候ふ」と言ひて、遠く投げ遣りつ。児をば押し起こして、免したれば、起き走りて逃げて去

りぬ。

その時に、守少し立ち去きて、郎等を召して、「かの男、こなたに召し出だせ」と言へば、郎等寄りて、男の衣の頸くびを取りて、前の庭に引きゐて出でてすゑつ。親孝は「盗人を切りても棄てむ」と思ひたれども、守の言はく、「こ奴やつ、いとあはれえにこの質を免したり。身の侘しければ、盗みをもし、命や生くとて、質をも取るにこそあれ。憎がるべき事にもあらず。それに、我が免せと言ふに随ひて免したる、物に心得たる奴なり。速やかにこ奴免してよ。何か要えうなる、申せ」と言へども、盗人泣きに泣きて言ふ事無し。

〔『今昔物語集』〕

(注) 枷鎖——罪人をつなぐ刑具。

壺屋——物置小屋。

俵——処置。

問1 傍線部ア・イの古語の読みを、現代仮名遣いのひらがなで記せ。

ア 乳母子

31

イ 郎等

32

問2 波線部あゝえの語句の本文中での意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうち

からそれぞれ一つずつ選べ。

あ をこなる

① 子どもつぱい

33

② 愚かな

③ 興ざめな

④ むなしい

⑤ 未熟な

い 音にも聞く

① うわさに聞いている

34

② 声の調子でわかる

③ 納得がいく

④ 少しは理解できる

⑤ 聞き入れる気になる

う かたじけなく

35

- ① さしでがましく
- ② どうにも仕方なく
- ③ 嘆かわしく
- ④ おそれ多く
- ⑤ みつともなく

え あはれに

36

- ① うやうやしく
- ② 優しく
- ③ 趣深く
- ④ かわいそうに
- ⑤ けなげに

問3 空欄 a・c に入る助動詞として最も適当なものを、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ。ただし、同じものを二度以上選ばないこと。 a 37 ・ c 38

- ① ぬる
- ② なり
- ③ む
- ④ めれ
- ⑤ べき
- ⑥ まじき

問4 二重傍線部 b「候ふ」・d「仰せ」について、敬語の説明として最も適当なものを、次の

①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ。 b 39 ・ d 40

- ① 尊敬語で、頼信の自敬表現である。
- ② 尊敬語で、作者の頼信に対する敬意である。
- ③ 謙讓語で、盗人の頼信に対する敬意である。
- ④ 謙讓語で、盗人の親孝に対する敬意である。
- ⑤ 丁寧語で、親孝の童に対する敬意である。
- ⑥ 丁寧語で、親孝の頼信に対する敬意である。

問5 傍線部A・Bの解釈として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つ選べ。

A 逃げ得べき様や無かりけむ

41

- ① 逃げる場所が見つからなかったであろう
- ② 逃げるつもりがなかったのだろう
- ③ 逃げ切れる方法がなかったであろうか
- ④ 逃げなければならぬと思わなかったのか
- ⑤ 逃げられなかったのか、いや、逃げられたであろう

B ただ寄りてや奪ひてまし

42

- ① すぐに近づけばきつと奪い返せたであろう
- ② ちよつとでも近くに寄って奪い返したい
- ③ 飛び掛かっていけば奪い返せるだろうか
- ④ すぐそばに寄って奪い返してしまおうかしら
- ⑤ そばに近づいてもおそろく奪い返せないだろう

問6 傍線部C「守笑ひて」とあるが、「守」はなぜ笑ったのか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

43

- ① 親孝がわが子を人質として盗人に取られて、慌てふためいて泣いているのを見て、その場をなごませて親孝の緊張感を解いてやろうと思ったから。
- ② 親孝がわが子を人質として盗人に取られた程度で、あまりにも取り乱している様子を見て、自分の部下としてはあまりにも頼りなく思えたから。
- ③ 親孝がわが子を人質として盗人に取られて、うろたえ騒いでいるのを見て、悲しみに同情しながらも心中に軽蔑する気持ちが起こってきたから。
- ④ 親孝が泣きながら駆け込んだので、どれほどの大事件が起きたのかと驚いたが、実は大したことなくほっと一息ついて安心したから。
- ⑤ 親孝がわが子を人質として盗人に取られて、取り乱して泣いていたが、解決できない事件ではなく、親孝が武人としての器量に乏しいと思ったから。

問7 傍線部D「刀投げ候ふ」の理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

44

- ① 頼信の忠告に従ったふりをすれば、自分の犯した罪を軽減してくれると思ったから。
- ② 潔く降参することによって、頼信の歡心を買ひ、何とか助けてもらおうと思ったから。
- ③ 守の威厳にたじろぎながらも、自分の真意を尋ねてくれた頼信の思いやりを感じたから。
- ④ 童に刀をつきつける行動は、本来の自分の志ではないことを頼信に伝えようとしたから。
- ⑤ 刀をつきつけられた童を見て、親の親孝がひどく心配していることに気づいたから。

問8 傍線部E「盗人泣きに泣きて言ふ事無し」とあるが、ここに表れている盗人の心情として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

45

- ① せつかく童を人質にとって一稼ぎしようと企てたのに、頼信に巧みに言いくるめられて童を解き放すことになってしまい、後悔と無念な思いがこみ上げている。
- ② 童を人質にとつて親孝を脅すなど悪事を働いたのに、頼信の厳しくも筋の通った説得を聞いて童を解き放すと、罪を許してくれたので感きわまっている。
- ③ 命が助かりたいばかりに童を人質にして親孝を脅迫したのに、何とか罪を許してくれて命が無事であることをうれしく思い、犯した罪を心から悔いている。
- ④ 同じ武人であっても家臣の親孝は小心者なので打ち負かせるが、守の頼信は豪胆で威嚇的なので、もう逃げることはできないと観念して悲嘆に暮れている。
- ⑤ 人質の童を解放するとすぐに庭に引き出されたので、首を切られるのかと恐れおののいていたが、あっさりと罪が許されたので驚嘆して度を失っている。